

平成 30 年度上半期 沖縄県入域観光客統計概況

文化観光スポーツ部 観光政策課

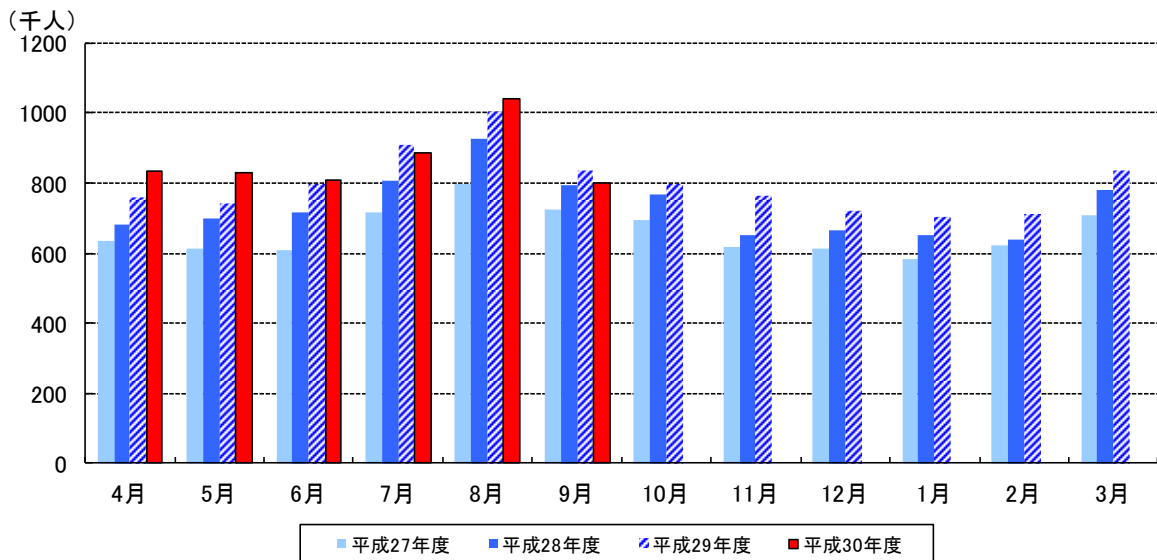
平成 30 年 10 月発表

(令和元年 11 月修正)

**平成 30 年度上半期は、520 万 2,600 人で過去最高を更新
対前年度(H29)比 +15 万 6,500 人、+3.1%**

入域観光客数（国内+外国）

■月別入域観光客数の推移（平成 27 年度～平成 30 年度）



■平成 30 年度上半期入域観光客の状況（平成 29 年度との比較）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
平成30年度	833,200	830,900	809,700	885,800	1,041,500	801,500	5,202,600
平成29年度	759,200	740,600	798,800	907,900	1,002,500	837,100	5,046,100
増減数	74,000	90,300	10,900	-22,100	39,000	-35,600	156,500
増減率	9.7%	12.2%	1.4%	-2.4%	3.9%	-4.3%	3.1%

■平成 30 年度上半期の概況（総括）

平成 30 年度上半期の入域観光客数は、520 万 2,600 人となり、対前年同期比で 15 万 6,500 人増加、率にして 3.1%増となった。月別では、6 月までは 69 か月連続で対前年同月を上回るとともに、56 か月連続で当該月の過去最高を上回る客数を記録した。台風等の影響で 7 月に連続更新はストップしたものの、8 月は前年に引き続き 100 万人台を記録し、単月の過去最高となった。

前年度上半期と比べて増加した主な要因は、次のとおりと考えられる。

- 行政や民間が一体となった誘客プロモーションの効果
- 離島直行便など国内航空路線の拡充
- 海外航空路線の拡充及びクルーズ船の寄港回数の増

国内観光客についての動向

■平成30年度上半期国内観光客の状況（平成29年度との比較）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
平成30年度	556,400	514,600	534,600	595,000	741,500	571,000	3,513,100
平成29年度	541,600	523,800	537,300	615,200	726,800	603,600	3,548,300
増減数	14,800	-9,200	-2,700	-20,200	14,700	-32,600	-35,200
増減率	2.7%	-1.8%	-0.5%	-3.3%	2.0%	-5.4%	-1.0%

■国内観光客の概況

成田－石垣路線の新規就航等を含む航空路線の拡充（※）があったものの、台風の影響による航空路線の欠航や関西国際空港の一時閉鎖があったこと等から、前年を下回った。

下半期は、景気のゆるやかな回復基調が続いていることや、引き続き航空路線の拡充が予定されていること等から、堅調に推移する見込み。

※新規就航のあった路線：成田－石垣、沖永良部－那覇路線

主な増便のあった路線：中部－宮古、福岡－石垣、福岡－宮古

外国人観光客についての動向

■平成30年度上半期外国人観光客の状況（平成29年度との比較）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
平成30年度	276,800	316,300	275,100	290,800	300,000	230,500	1,689,500
平成29年度	217,600	216,800	261,500	292,700	275,700	233,500	1,497,800
増減数	59,200	99,500	13,600	-1,900	24,300	-3,000	191,700
増減率	27.2%	45.9%	5.2%	-0.6%	8.8%	-1.3%	12.8%

■外国人観光客の概況

麻しん（はしか）患者の発生や台風の影響が懸念されたものの、沖縄発着航空路線が拡充（※）したことや、クルーズ船寄港回数が増加したこと等から、好調に推移している。国籍・地域別では、台湾と中国の伸びが顕著となっている。

下半期は、引き続き航空路線の拡充やクルーズ船の寄港回数増が予定されていること等から、好調に推移する見込み。

※新規就航のあった路線：高雄－那覇、仁川－那覇路線

主な増便のあった路線：台北－那覇、釜山－那覇、香港－那覇路線